



28 香川勝廣 《鳳凰高彫花盛器》 一對

明治三十八年（一九〇五） 金・銀、彫金・象嵌 各径五三・五、高六一・五

本作は明治三十六年に宮内省より明治宮殿鳳凰の間の装飾品として、香川勝廣（一八五三〜一九一七）に制作を依頼されたものである。鳳凰の間に相応しい存在感のある鳳凰を配した、明治期の彫金作品としては異例の大きさの花盛器である。明治宮殿には金工や陶磁による大型の花瓶類が調度として用いられていたことが、左図と同じく大正期に撮影された記録写真から明らかになっている。それらの調度の中には、本作のように帝室技芸員クラスの高度な技量を保持した工芸家により制作されたものも含まれていた。大きく端反りになった袋形の素地を鍛金家の黒川栄勝が成形し、香川は象嵌された高彫による雌雄の鳳凰を担当している。後年の勝廣自身の談話により、鳳凰は複数のパーツに分かれており、銀板に金板を貼り合わせて高彫したと伝えられている。銀製の器体に羽毛の細部まで緻密に彫り表された金色の鳳凰が舞う、きらびやかな豪華絢爛たる一作である。

香川勝廣は江戸で生まれ、彫金を野村勝守、絵画を柴田是真に学んだ。のちに彫金は加納夏雄に師事し、御剣刀装の御下命制作など夏雄の助手として補佐した。明治三十九年（一九〇六）に帝室技芸員に任命された。



明治宮殿・鳳凰之間一部屋の左右に「鳳凰高彫花盛器」が、壁面向かって右の欄に「蘭陵王置物」が配されている。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

皇室技芸員と一九〇〇年パリ万国博覧会

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 47

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十年七月十九日発行

© 2008 The Museum of the Imperial Collections